

4 年制大学と短期大学における保育実習（施設）の 意義について（4）

－ 実習を終えた 2 年生の学生のアンケートから見えてくるもの －

服 部 次 郎
山 田 光 治
谷田貝 雅 典

岡崎女子短期大学研究紀要46号 抜粋

平成25年 3 月25日

4 年制大学と短期大学における保育実習(施設)の 意義について (4)

— 実習を終えた2年生の学生のアンケートから見えてくるもの —

服 部 次 郎** 山 田 光 治* 谷田貝 雅 典*

要 旨

先行研究において短期大学における保育実習(施設)の意義について、学生が実習後「大いに意義がある」と述べたり、実習の体験を通じて「自分自身が変わった」と言ったりすることが多いことから、それを実証的に証明するため、実習後のアンケート調査および統計的手法を用いた分析により検証してきた。本研究では短期大学の学生において検証されたことが4年制大学の学生についてもあてはまるのではないかと推測し、同じアンケート調査を実施したところ、それが証明された。その上で、実習をより意義のあるものとするためには、4年制大学及び短期大学において、どのような授業科目が役立つか、学生の実習前の準備状況の実態についても検討を加えた。

Abstract

As for the meaning of student training for care-workers at social welfare facilities, we have verified by using questionnaire and statistical analysis in our previous studies that student trainees at college are able to grasp the value of the student training and that they are able to feel self-change through training. So on this thesis we try to verify our assumptions at university that the same thing can be said. We also try to clarify what subjects in university and college are useful for student training for care-workers to be meaningful and how much preparation are students doing before they begin student training for care-workers at social welfare facilities.

Key Words : 保育実習の意義 実習体験による変化 4年制大学と短期大学学生 アンケート調査と分析

1 研究の目的と背景

筆者の一人、服部は岡崎女子短期大学で保育実習(施設)を8年間担当した後椋山女学園大学に移った。この大学でも保育実習(施設)を担当することとなり、2年生が施設実習を無事終えた。先行研究^(1~3)においては、短期大学における保育実習(施設)の意義について、学生が実習後「大いに意義がある」と述べたり、実習の体験を通じて「自分自身が変わった」と言ったりすることが多いことから、実習後のアンケート調査および統計的手法を用いた分析によりそのことを実証的に証明してきた。本研究ではそのことが4年制大学の2年次学生についてもあてはまるのではないかと推測し、同じアンケート調査を実施した。その上で、後任の施設実習担当教員である山田とも相談し、短期大学の2年次の学生と比較検討し、さらに統計の専門家でもある谷田貝(専門社会調査士)の協力も得て、この研究を継

続することとした。

上に述べたことを具体的に証明するために、実施したアンケートの内容を整理し、次のような仮説を立て、その妥当性を統計的手法も用いて検討していくこととした。

- (1)施設実習を行うことについて多くの学生が不安を感じているが、4年制大学の2年次の学生についても、6日間の宿泊実習終了時には、「施設実習は意義があった」、また「実習を通じて自分が変わった」、と感じるであろう。
- (2)4年制大学と短期大学の授業において、「保育実習(施設)」の授業は当然のこととして、どのような科目が実習生にとって、役に立ったと感じているのか、また「保育実習(施設)」の授業では、どのような内容が役に立ったと感じるのかを承知しておくことは、施設実習担当者として大切なことである。筆者はこれまでの経験から、授業科目

** 椋山女学園大学教育学部

* 岡崎女子短期大学幼児教育学科

としては「保育実習（施設）」の他に「養護原理」などが役に立つこと、そして「保育実習（施設）」の授業においては特に「先輩の体験談」が役に立つと考えて授業構成してきたが、そのことは4年制大学の2年次学生にも支持されるであろう。

(3)実習前の準備の大切さについては、誰しも認めるところであるが、短期大学での調査では、意外とできていなかった。その点、4年制大学の2年次学生においては、短期大学の学生よりは時間的に余裕があると思われるため、準備がある程度よくできるのではないかと。

以上のように、筆者服部が経験的に感じていたことについて、施設実習を終えた学生にアンケート調査を実施し、その結果を項目別にまとめて分析するとともに、もう一人の筆者谷田貝が統計的手法を用いて結果を客観的に分析することで仮説を検証することを今回の論文の目的とした。

2 研究方法

2012年1月に実習した4年制大学の2年生(82名)の学生と2011年7～8月に実習した短期大学2年生(156名)とに対して、事後指導の授業でほぼ同内容のアンケート調査を実施した。それらの基礎データから、特に今回は「実習の意義」と「自分の変化」に関する項目に焦点をあてながら、他の項目についても可能な限り詳細な統計的分析を行い相互の関連性及び因果関係を明らかにする。

3 仮説モデル

本研究では、先行研究^(2～3)で得られたモデルを継承し、図1に示すMIMIC (Multiple Indicators Multiple Causes) を仮説モデルとして設定した。

本来、施設実習などの、個々の学習者が違う環境で学習する場合には、その効果を規定するに当たり、多様な要因と多角的な評価が必要である。一般的に、MIMICモデルは多重指標・多重要因を説明する際に適したデザインである^(4～6)。なお、図1のモデルは、先行研究^(2～3)においても高い適合度を示しており、二つの研究間^(2～3)で採択できたことから、十分普遍性のあるモデルであると判断できる。

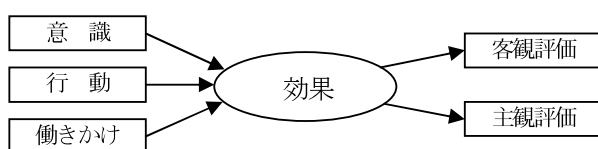


図1 施設実習仮説モデル (MIMIC)

図1の仮説モデルは、「意識」や「行動」、および教授者の「働きかけ」から、実習評価を予測するデザインであり、実習評価としては、実習先から評定して頂いた値を客観評価と定め、質問紙調査より実習満足感に関する項目を主観評価と定める。

4 二つの大学におけるアンケート結果

初めに、二つの大学においてアンケート調査を実施した結果を表の1-1と表1-2に示した。詳しい統計的分析は、のちほど示す(表2、表3)ことになるが、ここでは特に、今回の目的としてあげた項目について、まずは触れておきたい。問1については、4年制大学の2年生において、93%の学生が、とても、あるいはある程度意義があったとしているのに対し、短期大学の2年生の学生は、89%が意義があったとしている。次に、問2の自分の変化については、4年制大学の2年生において、98%の学生が、とても、あるいはある程度意義があったとしているのに対し、短期大学の2年生の学生は、91%が自分は変化したと回答している。

次に、問3の「大学の授業は役に立ったか」については、4年制大学においてあげられた授業科目は、1位が「保育実習（施設）」で32人、2位が「養護原理」で16人、そして3位が「児童福祉」の7人であった。一方、短期大学の2年生の学生は、1位に「保育実習（施設）」を56人があげ、2位には「養護原理」を25人、そして3位に「家族援助論」をあげている。そして事前準備で役だったものとして、4年制大学においては、施設調べが24人、先輩の体験談が3人、短期大学においても、施設調べが52人、先輩の体験談12人という状況であった。仮説(1)(2)については支持されたが、(3)については支持されなかった。

5 分析および結果

本研究で用いた共分散構造分析のためのアプリケーションソフトは、Amos 7.0.0 (build 1177) である。3章で示した仮説モデルを基本デザインとし、おもに1章(1)～(3)を検証するために、「大学別」および「(4)施設実習に行く前に十分準備が出来た」回答別の2モデルを設定した。2モデル中の、個々の群ごとにモデル適合度を参照し、配置不変性モデルであることを検証したのち、あらためて多母集団の同時分析を実行した。得られた結果を図2、3および各総合効果を表2、3に示す。なお、先行研究^(2～3)を継承するためと適合度の観点から、誤差変数e1と

表1-1 平成23年度 施設実習振り返りアンケートの結果（相山女学園大学）

冬季データ集計結果（相山女学園大学2年生 82名）（平成24年1月実施分）

質問 項目 No	施設区分	評 価 区 分				
		5 とてもそう 思う	4 ややそう思 う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 まったくそ う思わない
(1) 施設 実習は有意 義であつ た。	養護系施設 (70名)	47 (67%)	19 (27%)	3 (4%)	1 (2%)	0 (0%)
	障害系施設 (12名)	10 (83%)	0 (0%)	2 (17%)	0 (0%)	0 (0%)
	計 (82名)	57 (70%)	19 (23%)	5 (6%)	1 (1%)	0 (0%)
(2) 施設 実習を受け る前と比べ て、自分は 変化した。	養護系施設	19 (27%)	49 (70%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)
	障害系施設	7 (58%)	5 (42%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	計	26 (32%)	54 (66%)	2 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
(3) 施設 実習では大 学での授業 が役に立っ た。	養護系施設	11 (16%)	46 (66%)	9 (13%)	4 (5%)	0 (0%)
	障害系施設	2 (17%)	4 (33%)	4 (33%)	2 (17%)	0 (0%)
	計	13 (16%)	50 (61%)	13 (16%)	6 (7%)	0 (0%)
(4) 施設 実習に行く 前に十分準 備ができた。	養護系施設	3 (4%)	26 (37%)	25 (36%)	16 (23%)	0 (0%)
	障害系施設	0 (0%)	3 (25%)	2 (17%)	7 (58%)	0 (0%)
	計	3 (4%)	29 (35%)	27 (33%)	23 (28%)	0 (0%)
(5) 施設 実習中の教 員の訪問指 導はよかった。	養護系施設	39 (55%)	20 (29%)	11 (16%)	0 (0%)	0 (0%)
	障害系施設	10 (83%)	2 (17%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	計	49 (60%)	22 (27%)	11 (13%)	0 (0%)	0 (0%)
(6) 実習 で出会った 児童、利用 者、職員か ら色々と学 ぶことがで きた。	養護系施設	60 (86%)	10 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	障害系施設	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
	計	72 (88%)	10 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

3大学の授業で役に立った科目（評価5と4のみ）

保育実習 32	養護原理 16	発達心理学 2
施設調べ 1	児童福祉 7	
職員講話 12	乳児保育 4	
先輩体験談 8	精神保健 4	

4事前の準備で役に立ったもの（全員）

施設調べ 24
先輩の体験談 3

表1-2 平成23年度 施設実習振り返りアンケートの結果（岡崎女子短期大学）

夏季データ集計結果（第一部2年生 156名）（平成23年7月～8月実施分）

質問 項目No	施設区分	評 価 区 分				
		5 とてもそう 思う	4 ややそう思 う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう 思わない	1 まったくそ う思わない
(1) 施設 実習は有意 義であっ た。	養護系施設 (115名)	41 (36%)	57 (49%)	9 (8%)	8 (7%)	0 (0%)
	障害系施設 (41名)	29 (71%)	11 (27%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
	計 (156名)	70 (45%)	68 (44%)	10 (6%)	8 (5%)	0 (0%)
(2) 施設 実習を受け る前と比べ て、自分は 変化した。	養護系施設	23 (20%)	80 (69%)	10 (9%)	2 (2%)	0 (0%)
	障害系施設	20 (49%)	19 (47%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)
	計	43 (28%)	99 (63%)	11 (7%)	3 (2%)	0 (0%)
(3) 施設 実習では大 学での授業 が役に立っ た。	養護系施設	23 (20%)	55 (48%)	26 (23%)	11 (9%)	0 (0%)
	障害系施設	2 (5%)	12 (29%)	19 (46%)	6 (15%)	2 (5%)
	計	25 (16%)	67 (43%)	45 (29%)	17 (11%)	2 (1%)
(4) 施設 実習に行く 前に十分準 備ができた。	養護系施設	9 (8%)	50 (43%)	39 (34%)	15 (13%)	2 (2%)
	障害系施設	3 (7%)	10 (24%)	15 (37%)	11 (27%)	2 (5%)
	計	12 (8%)	60 (38%)	54 (35%)	26 (16%)	4 (3%)
(5) 施設 実習中の教 員の訪問指 導はよかった。	養護系施設	76 (66%)	32 (28%)	7 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
	障害系施設	29 (70%)	6 (15%)	6 (15%)	0 (0%)	0 (0%)
	計	105 (67%)	38 (25%)	13 (8%)	0 (0%)	0 (0%)
(6) 実習 で出会った 児童、利用 者、職員か ら色々と学 ぶことがで きた。	養護系施設	72 (62%)	39 (34%)	3 (3%)	0 (0%)	1 (1%)
	障害系施設	34 (83%)	6 (15%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
	計	106 (68%)	45 (29%)	4 (2%)	0 (0%)	1 (1%)

3大学の授業で役に立った科目（評価5と4のみ）

保育実習	56	養護原理	25
施設調べ	0	家族援助論	10
職員講話	2	総合演習Ⅲ	5
先輩体験談	15	児童福祉	3

4事前の準備で役に立ったもの（全員）

施設調べ	52
先輩の体験談	12

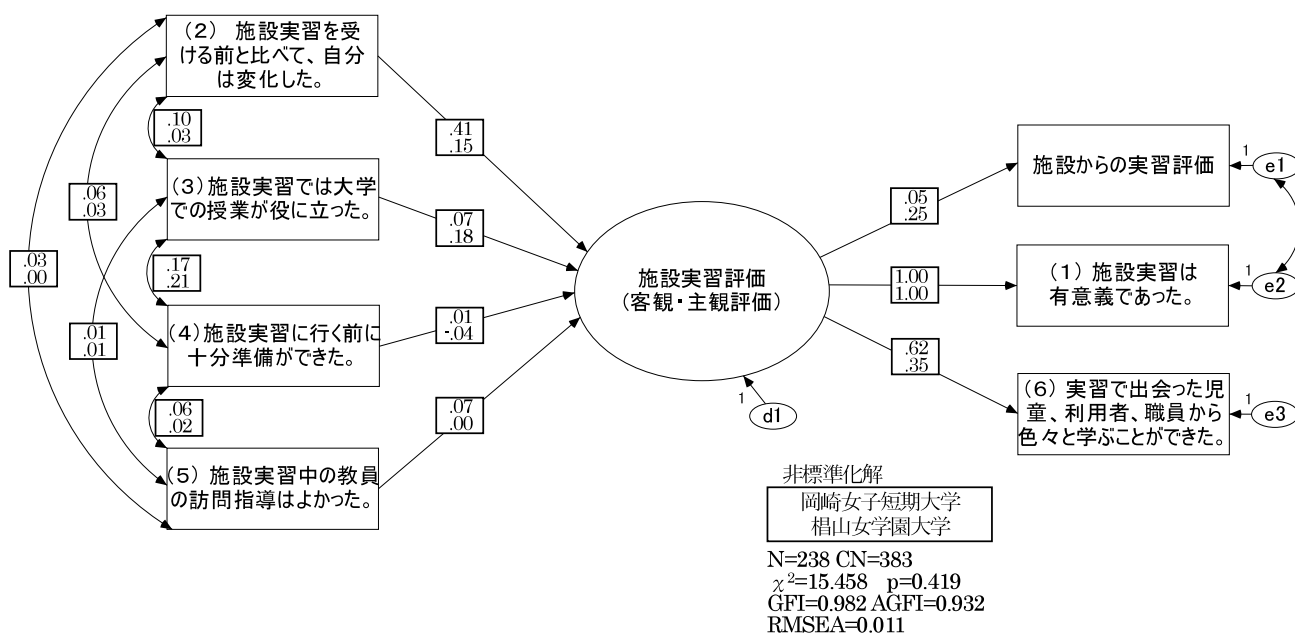


図2 大学別施設実習因果モデル

表2 大学別総合効果（標準化および非標準化解）

	大学別の施設実習評価					
	岡崎女子短期大学			相山女学園大学		
	施設からの実習評価	(1) 施設実習は有意義であった。	(6) 実習で出会った児童、利用者、職員から色々学ぶことができた。	施設からの実習評価	(1) 施設実習は有意義であった。	(6) 実習で出会った児童、利用者、職員から色々学ぶことができた。
(2) 施設実習を受ける前と比べて、自分は変化した。	0.022 (0.019)	0.311 (0.411)	0.259 (0.256)	0.037 (0.037)	0.112 (0.145)	0.068 (0.050)
(3) 施設実習では大学での授業が役に立った。	0.006 (0.003)	0.086 (0.075)	0.072 (0.047)	0.070 (0.045)	0.210 (0.178)	0.129 (0.062)
(4) 施設実習に行く前に十分準備ができた。	0.001 (0.001)	0.015 (0.013)	0.013 (0.008)	-0.019 (-0.010)	-0.057 (-0.043)	-0.035 (-0.015)
(5) 施設実習中の教員の訪問指導はよかった。	0.004 (0.003)	0.057 (0.073)	0.048 (0.045)	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)

標準化総合効果(下段: 非標準化総合効果)

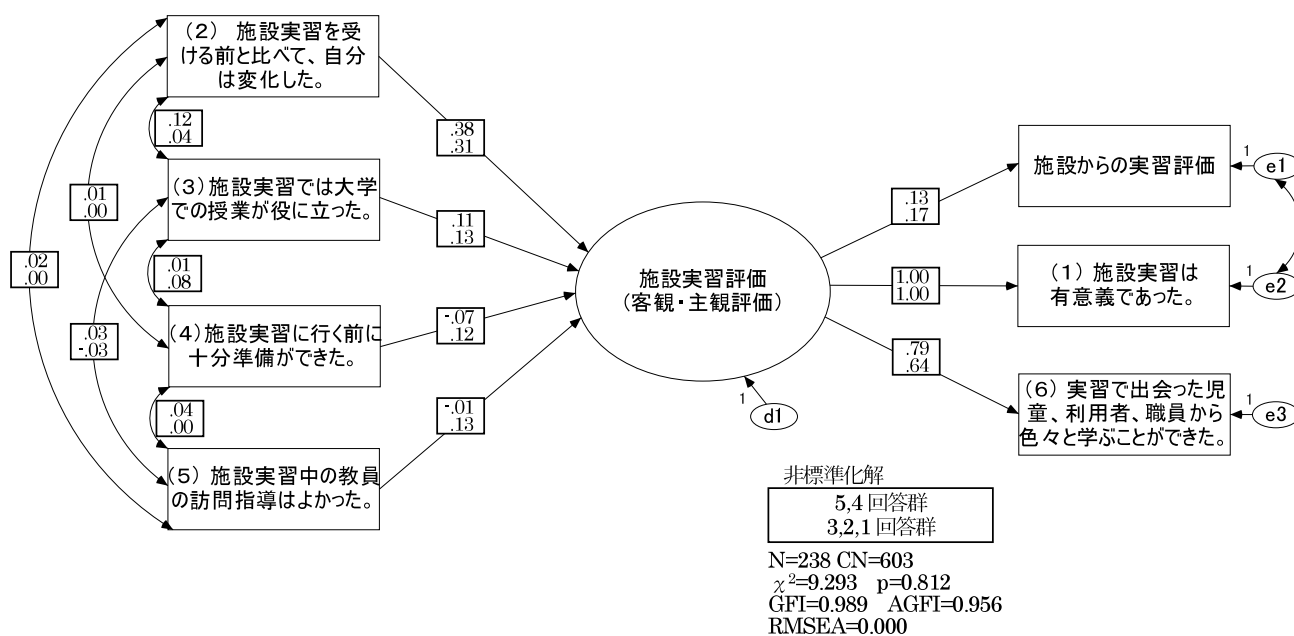


図3 「(4)施設実習に行く前に十分準備が出来た」回答別施設実習因果モデル

表3 「(4)施設実習に行く前に十分準備が出来た」回答別総合効果（標準化および非標準化解）

	「(4)施設実習に行く前に十分準備が出来た。」回答別の施設実習評価					
	「5とてもそう思う 4ややそう思う」群			「3どちらともいえない 2あまりそう思わない 1まったくそう思わない」群		
	施設からの実習評価	(1)施設実習は有意義であった。	(6)実習で出会った児童、利用者、職員から色々と学ぶことができた。	施設からの実習評価	(1)施設実習は有意義であった。	(6)実習で出会った児童、利用者、職員から色々と学ぶことができた。
(2)施設実習を受ける前と比べて、自分は変化した。	0.054 (0.050)	0.293 (0.381)	0.320 (0.302)	0.059 (0.052)	0.223 (0.306)	0.215 (0.197)
(3)施設実習では大学での授業が役に立った。	0.027 (0.015)	0.144 (0.114)	0.157 (0.090)	0.034 (0.021)	0.130 (0.126)	0.125 (0.081)
(4)施設実習に行く前に十分準備ができた。	-0.006 (-0.009)	-0.033 (-0.069)	-0.036 (-0.055)	0.020 (0.020)	0.077 (0.115)	0.074 (0.074)
(5)施設実習中の教員の訪問指導はよかった。	-0.002 (-0.001)	-0.009 (-0.010)	-0.010 (-0.008)	0.029 (0.022)	0.110 (0.130)	0.106 (0.083)

標準化総合効果(下段:非標準化総合効果)

e2の間に誤差相関を設定した。

図2のモデル適合度を検討する。標本数(N)はホルターの臨界標本数(CN)を下回っていることから、 χ^2 検定を参照する必要がある。帰無仮説として「構成されたモデルは正しい」という設定から、 χ^2 値は15.458で、 $p=0.419$ ($p>0.05$ で χ^2 値は有意ではない)と「モデルは棄却されない」ことから、採択可能である。よって、CFIとAGFIを参照すると、ともに0.90以上であり、両値の差も0.050と小さい値であることから、モデルとデータの適合度は高く、構成されたモデルは標本分散共分散行列をよく説明していると判断される。また、RMSEAは0.050を大きく下回っており乖離度の観点から適合度が良いモデルであることも示された。

図3のモデル適合度を検討する。図2と同様に、標本数(N)はホルターの臨界標本数(CN)を下回っていることから、 χ^2 検定を参照すると $\chi^2=9.293$ 、 $p=0.812$ であることから、本モデルも採択可能である。よって、CFIとAGFIを参照すると、ともに0.90を大きく上回り、両値の差も0.033と小さい値であることから、モデルとデータの適合度は高く、構成されたモデルは標本分散共分散行列をよく説明していると判断される。また、RMSEAは0.050を大きく下回っており乖離度の観点から適合度が良いモデルである。

以上より、3章でのべた仮設モデルの普遍性が確認され、本研究においても図1のモデルの妥当性が追認された。なお、図2、3中の各値は、紙面の都合上、行動計量学の慣例に習い「-0.01」を「-.01」と短縮した値で表記した。

5.1 大学別施設実習因果モデル

1章(1)(2)を中心に検証するために、図2の因果モデルを検討する。

図2より、各大学間の各観測変数(項目(2)~(5))から施設実習評価(客観評価:「施設からの実習評価」A~D4段階評定、主観評価:項目(1)(6))への特徴的な直接効果(非標準化解)を比較検討する。規定力の差が大きく特徴的であった観測変数は項目(2)であり、短期大学0.41、4年制大学0.15と、短期大学が3倍の規定力を示した。次いで、項目(3)では、4年制大学0.18、短期大学0.07と、4年制大学が約2倍の規定力を示した。これらの項目は、他の項目(4)(5)に比べ、比較的大きな規定力を示しており、かつ短期大学と4年制大学で、規定力の大きさが逆転している。よって、短期大学では実習前後の意識の

変化が実習効果を大きく左右し、4年制大学では大学の授業が実習効果を左右する要因であることがわかった。なお、値は小さいが、項目(4)に関しては、4年制大学における規定因がマイナスの値を示し「施設実習に行く前に十分準備が出来た」に肯定的な解答をした学生は「施設実習評価」が下がることを示している。このことは、以降の分析を鑑み、次節以降において検討する。

次に表2より、各観測変数から各施設実習評価への総合効果を検討する。まず標準化総合効果より、各大学ごとの施設実習評価への規定因を探る。短期大学では、「(2)施設実習を受ける前と比べて、自分は変化した。」が3つの施設実習評価(「施設からの実習評価」および項目(1)(6))とも1位で、2位以下から3倍以上の大きな規定力を示しており、特に客観評価である「施設からの実習評価」においては、この項目(2)のみが一定の規定因を示している。他方、4年制大学では、3つの施設実習評価に対し、1位に「(3)施設実習では大学での授業が役に立った。」であり、2位に「(2)施設実習を受ける前と比べて、自分は変化した。」が規定力を示した。

項目(2)(3)が施設実習評価を規定する大きな要因であり、かつ、両大学間で規定因の違いがあることから、非標準化総合効果により、重要と思われる項目を中心に、大学間の施設実習評価への規定力を比較する。項目(2)においては、客観評価への規定力は双方とも小さく、差があるとは認められないが、主観評価(項目(1)(6))においては、短期大学が4年制大学に比べ3倍以上の規定因を示しており、項目(2)は短期大学の主観評価においては特に重要な要因であることがわかった。項目(3)においては、客観評価および主観評価のうち項目(1)が、4年制大学のほうが短期大学に比べ2倍以上の規定因を示した。なお、他の規定因を比較すると、項目(5)は短期大学のみ規定力があり、4年制大学では規定力がなく、実習中の訪問指導の影響は短期大学で大きいことがわかった。また、項目(4)においては、4年制大学の主観評価のうち項目(1)に対してやや規定因が認められ、マイナスの値を示している。これは前述の直接効果と同様の結果であった。

以上より、1章(1)で述べた「実習を通じて自分が変化した」ことは、両大学とも「施設実習評価」を規定する重要な要因であることが示され、施設実習評価のうち「施設実習は意義があった」は、両大学とも項目(2)~(5)から大きな規定力を受ける重要な主観評価であることがわかった。また、1章(2)で述べ

た大学の授業においては、特に4年制大学では、「施設実習評価」を規定する最も重要な要因であることが新たにわかった。

5.2 項目(4)回答別施設実習因果モデル

1章(3)を中心に検証するために、図3の因果モデルを検討する。

図3より、項目(4)回答別群間の各観測変数から施設実習評価への特徴的な直接効果（非標準化解）を比較検討する。規定力の差が大きく特徴的であった観測変数は項目(4)を省くと、項目(5)であり、準備が出来た群（項目(4)に対し5，4と回答した群）-0.01、準備が出来ていない群（項目(4)に対し3，2，1と回答した群）0.12と、符号が逆転しており、準備が出来ていない群に正の規定因が認められた。よって、準備が出来ていない群では、訪問指導による施設実習評価の向上が見込まれ、準備が出来た群では値は小さいが逆に施設実習評価を下げる要因である可能性が示された。また、群分けに利用した項目(4)においては、準備が出来た群はマイナスの規定因で施設実習評価を下げる事が示され、逆に準備が出来ていない群では施設実習評価を向上する要因であることが示された。

次に表3より、各観測変数から各施設実習評価への総合効果を検討する。まず標準化総合効果より、項目(4)の各回答群ごとの施設実習評価への規定因を探る。両群ともに、「(2)施設実習を受ける前と比べて、自分は変化した。」が3つの施設実習評価（「施設からの実習評価」および項目(1)(6)）とも1位で、2位に「(3)施設実習では大学での授業が役に立った。」となった。よって、両群内における各観測変数から施設実習評価への規定力の重要度に違いが無いことがわかった。

次に、非標準化総合効果により、共通して重要である項目(2)(3)を中心に、項目(4)の各回答群間の施設実習評価への規定力を比較する。両群とも標準化総合効果において共通して最も規定力の高かった、項目(2)においては、主観評価にあたる項目(1)(6)は、準備が出来た群の方が、高い規定力を示した。なお、客観評価である「施設からの実習評価」については実質的な差は認められなかった。他の項目で両群間に大きな差が認められた項目は、項目(5)であり、3つの施設実習評価とも準備が出来ていない群の方が、施設実習評価への規定力が高いことが示された。また、群分けに利用した項目(4)においては、準備が出来ていない群の規定力が大きく、施設実習評価を

向上する要因であることが示された。

以上の結果を検討すると、準備が出来た群は非標準化総合効果より、準備が出来ていない群に比べ、主観評価（項目(1)(6)）が高い群であり、両群とも客観評価（施設からの実習評価）には差が認められないことから、準備が出来た群は思想的に楽観的である学生の可能性がある。よって、今回の母集団では、実質的に準備が出来ていたかを計る指標とは判断し難く、1章(3)の検討は、行えないと判断した。

なお、このように実質的な解釈と、分析したモデル中の係数の符号が逆転する現象は、しばしば発生する。この場合、短絡的に分析結果を承認することはせず、モデル構成を多角的に検証する必要がある(4)。

図2，3のモデルにおいて検証した要点を述べると、ともに、予測変数間に大きな相関（一般に0.5以上）のものは無く、両図中には示していないが、各規定因の標準化解が1.0を大きく上回る係数も無いことから、意味のあるあるいは無意味な多重共線性は認められない。観測変数に対応する誤差変数の分散が0またはマイナスの値となるヘイウッドの不敵解（Heywood Case）は認められない。また、モデル適合度指数が全て適切であることから、モデルの棄却や不適解は認められない。よって、これ以上の解釈や検討は実質科学的見地から妥当性を欠く恐れがあるため上記の結果までを限界と判断した。

6 考 察

5.1節より、「実習を通じて自分が変化した」と感じることは両大学とも、施設実習における効果的な経験であり、本結果は短期大学における先行研究⁽²⁻³⁾を追認しており、本研究により大学の別を超えて、このような経験を多く積むことが施設実習における学習効果の向上に重要であることが新たにわかった。また、4年制大学では「(3)施設実習では大学での授業が役に立った。」が施設実習評価を向上させる最も重要な要因となり、本研究およびこれまでの先行研究⁽²⁻³⁾を通じて短期大学では認められなかった新たな結果であった。本結果は、両大学間の学生資質および両大学間のカリキュラムや授業内容の差から現れたものと考えられ、短期大学においても、4年制大学と同様に実習に対し効果的な授業が望まれる。また、4章で示した、役に立った授業の自由記述内容を検討すると、1位2位においては、短期大学と4年制大学において同一科目を上げており、基幹となる科目に共通性があるものと考えられる。また、3位に短期大学は家族援助論、4年

制大学は児童福祉と違った科目を上げた。よって、両科目に対応すると考えられる、児童養護系施設および障害者系施設の別で、分析を実行すれば、より、その効果が具体的に示せたが、本研究では、4年制大学の障害者系施設へ実習に行った学生が12名しか得られなかったため、分析が不可能であった。したがって、標本数を増やし、今後の研究課題として調査を継続する意義があるものと考えられる。

7 おわりに

本研究の結果、「実習を通じて自分が変化した」と感じる事が、大学間を超えて施設実習における学習効果の向上に重要であることが新たにわかった。また、本研究において4年制大学を新たな調査先として加えたことにより、先行研究^(1~3)では見いだせなかった「大学での授業が役に立つ」と感じることも、施設実習における学習効果の向上に重要であることが示された。本成果を受けて、今後、更に効果的な施設実習を目指す上で、学生に対し「実習を通じて自分が変化した」と感じられる実習環境を整備するとともに、「大学での授業が役に立つ」と実感してもらえる更なるカリキュラム研究が必要である。

また、今後の研究課題として、本研究では明らか

にできなかった、学生の実習準備状況と実習効果の因果関係、および主要授業科目と施設種別における実習効果の因果関係を明らかにする必要があると考えられる。

【参考文献】

- (1)服部次郎・谷田貝雅典：保育実習（施設）の意義について－実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの－，岡崎女子短期大学研究紀要 第43号 pp.47-54（2010）
- (2)服部次郎・谷田貝雅典：保育実習（施設）の意義について(2)－実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの－，岡崎女子短期大学研究紀要 第44号 pp.1-6（2011）
- (3)服部次郎・谷田貝雅典・山田光治：保育実習（施設）の意義について(3)－実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの－，岡崎女子短期大学研究紀要 第45号 pp.63-72（2012）
- (4)豊田秀樹：共分散構造分析〔応用編〕－構造方程式モデリング－，北大路書房（2000）
- (5)豊田秀樹：共分散構造分析〔技術編〕－構造方程式モデリング－，朝倉書店（2003）
- (6)柳井晴夫・他4名：多変量解析実例ハンドブック，朝倉書店（2002）